

令和2年1月29日(水)午後3時～
岬高等学校 会議室

出席者 【委員】見先 島崎 山路 田中 矢田(欠席) 和田(敬称略)
【岬高校】校長 教頭(2名) 事務長 首席(2名)
進路指導主事 学年主任(3名)
教育相談委員長 山海人委員長 初任(1名)

1. 【学校長挨拶】

2. 【学校運営協議会実施要項の確認】

3. 【報告事項】

① 令和元年度学校経営計画及び学校評価について

エンパワメントスクールの教育内容の充実

- ・エンパワメントタイム(肯定的回答64% 目標達成)
- ・モジュール授業(肯定的回答72.7% 目標達成)
- ・授業アンケート(3.18ポイント 目標達成)
- ・生徒がわかる・楽しい授業の取り組みがなされている。

専門系列の取り組み

- ・SUP、水中ドローン、オーストラリア国際交流、特色ある学校設定科目

特別活動の充実

- ・新聞掲載1回、TV報道4回(地元の猪を使ったラーメン)、アドプトロード

キャリア教育

- ・人権教育推進について

インクルーシブ教育に向けた取り組みの充実、通級指導教室の充実

- ・すべての入学生に対し自尊感情アンケートを実施。自尊感情が低い生徒について個別の細かな声掛け
- ・放課後デイサービスと連携。教員がデイサービスの子どもたちの変化を観察し、指導に生かしている。
- ・すべての配布物にルビ打ち

人材の育成と管理

- ・教員研修20回実施。校内メールの活用推進による会議等の効率化

地域連携と広報活動

② オーストラリア研修の報告(動画)

- ・スマートフォンの機能を活用し、現地までの道のりや食事の注文やホテルへのチェックインなどすべての行程を生徒自身でこなした。
- ・相手校での交流。本校生徒による英語での自己紹介や、大阪や学校の紹介(プレゼンテーション)

③ 令和元年度授業アンケート・学校教育自己診断アンケート結果について

授業アンケート

- ・生徒の特性に合わせた個別指導を取り入れ、昨年度より高い数値になったと考えられる。

学校教育自己診断アンケート

- ・生徒、保護者アンケートの数値は高くなっているが、教員アンケートの数値が下がっている。
- ・行事に参加してくれる保護者が増えている。
- ・新しい取り組みが多く、教員には負担が大きかったように思う。

④各分掌・委員会による報告

進路指導部

- ・進路未決定者20名について継続指導
- ・求人は技能系を中心に昨年度より増加。新しい企業からの求人も増えている。

P T A 事業報告

教育相談委員会

- ・スクールカウンセラーの活動内容
- ・スクールソーシャルワーカーの活動内容

山海人プロジェクト委員会

- ・山海人プロジェクトの実施報告
- ・アドプトロード認定について
- ・選択科目「山海人」の活動報告

中学校やNPO はらっぱへのドイツゲーム出張体験会報告

4. 【来年度学校経営計画及び学校評価について】

学習活動の充実

- ・新系列の構築を図るとともに、従来の4つの系列の内容も充実させる。

支援教育体制の整備

- ・学び方に応じた少人数クラス

アンケート等の数値目標

5. 【質疑応答等】

少人数クラスについて

- ・特性や学び方に応じた少人数クラスは今まで、高校にはなかったもので、このような体制整備の中で多様な学びに対応できるようになればよい。中学生にも積極的にすすめることができ、ぜひ成功してほしい。

人権教育について

- ・質問の聞き方を生徒にわかりやすいように変えているが、本来の人権と少し意味が変わってしまっている。
- ・部落問題について、もっと扱うべき。
- ・人権教育では100%の数値をめざすべき。

インクルーシブ教育について

- ・多様な特性のある生徒が自分の力を発揮できる環境整備として少人数クラスを用意。
- ・分けるための少人数クラスではない。

学校教育自己診断において、教員のアンケートの数値について

- ・学校が大きく変化し、これまでの指導方法などを見直すことで、教員には少なからず負担がかかっている。
- ・教員が同じベクトルを向いて学校を改革していくことが大事。
- ・これからの時代は、教員が、「自分自身が受けてきた教育と異なる形の教育を実践していくこと」が必要であり、校内研修などにもっと力を入れる必要がある。

不登校の生徒の数、原因について

- ・理由は様々であったり、教員からの聞き取りでも本当のことを言えているのかが難しい。